

学ぶ意欲向上に結びついたボランティア
— 渡日高校生による外国人観光客への案内通訳 —

橋本義範（NPO 法人おおさかこども多文化センター）

実践の場の特徴

- ・ 府立高校には外国につながる生徒（以下渡日生）が多数在籍、多くはバイリンガルである。
- ・ 近年、海外からの観光客（主に中華圏）増加がいちじるしい。地下鉄（大阪市交通局）の主要駅の自動切符売り場前には、観光地への経路に不案内であるため、戸惑う観光客も多数見受けられる状況が続いている。

実践の目標

参加生徒（主に渡日生）にとって

- ・ 日本語学習への意欲向上をはかる
- ・ 日本社会への貢献、自らの存在のアピール
- ・ 母国からの観光客への貢献
- ・ 日本と母国との架け橋としての自己肯定感の向上

外国観光客に対して

- ・ 快適な滞在環境の提供（おもてなし）の一助
- ・ 同胞高校生によるボランティア活動を受けることにより日本への第一印象に好影響を与える 社会にとっての意味
- ・ 渡日生の存在の認知（就労支援の一環）

具体的な実践の内容とその過程

大阪市交通局（地下鉄）主要駅自動切符売り場前での海外からの観光客・地下鉄職員（サービスマネージャー）間の母語による通訳及び案内活動

2015年度 活動日数 47日 参加生徒延べ数 246名

夏季期間 17日間 冬季期間 14日間 春節期間 7日間 春季期間 9日間

2016年度 夏季期間 19日間 冬期以降も実施予定

研修

- ・ 交通局での事前研修
- ・ ヒルトンホテル大阪にて接遇講習
- ・ 海遊館講習

結果と考察（目標の達成度）

- ・ 通訳する上での正しい日本語及び正確に相手に伝える母語を学ぶ意欲を高めることができた。
- ・ 公共の場での社会貢献体験は日本社会と関わる機会の少ない生徒の自己肯定感を高めると共に達成感を得られた。
- ・ 公共機関の業務の一環に関わることにより、日本社会への参加意識を持つことができた。
- ・ 交通局職員の指導により案内を通じて社会人として身につけるべき接客態度を学ぶ機会になった。
- ・ 大阪の観光地などへの行き方を案内することで大阪の街並み、歴史に興味を持つ機会になった。
- ・ 渡日の府立高校生の存在を社会に広めることができた。